

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
形態機能学	1 (30)	1	第1学期	院外講師
目 標				
人体の形態についての学問を基礎とし、生命を保つために必要な人体の構造と機能を理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 解剖生理学のための基礎知識 1) 構造からみた人体 2) 人体のさまざまな器官	講義	
2	2	3) 素材からみた人体	講義	
3	2	2. 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 2) 腹部消化管の構造と機能 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	
4	2	3. 呼吸と血液のはたらき 1) 呼吸器の構造 2) 呼吸 3) 血液	講義	
5	2	4. 血液の循環とその調節 1) 循環器系の構成 2) 心臓の構造 3) 心臓の拍出機能	講義	
6	2	4) 末梢循環系の構造 5) 血液の循環の調整 6) リンパとリンパ管	講義	
7	2	5. 体液の調整と尿の生成 1) 腎臓 2) 排尿路 3) 体液の調節	講義	
8	2	6. 内臓機能の調節 1) 自律神経による調節 2) 内分泌系による調節	講義	
9	2	3) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 4) ホルモン分泌の調整 5) ホルモンによる調節の実際	講義	
10	2	7. 身体の支持と運動 1) 骨とのどのようなものか 2) 骨の連結 3) 骨格筋 4) 体幹の骨格と筋	講義	
11	1	5) 上肢の骨格と筋 6) 下肢の骨格と筋 7) 頭頸部の骨格と筋 8) 筋の収縮 9) 運動と代謝	講義	
12	2	8. 情報の受容と処理 1) 神経系の構造と機能 2) 脊髄と脳 3) 脊髄神経と脳神経 4) 運動機能と下行伝導路 5) 感覚機能 6) 体性感覚と上行伝導路	講義	
13	2	7) 眼の構造と視覚 8) 耳の構造と感覚・平衡覚 9) 味覚と嗅覚 10) 痛み 11) 脳の統合機能	講義	
14	2	9. 身体機能の防御と適応 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体の防御機構 3) 体温とその調節	講義	
15	2	10. 生殖・発生と老化のしくみ 1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 3) 受精と胎児の発生	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	解剖生理学：医学書院 解剖生理学ワークブック：医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
生化学	1 (15)	1	第1学期	院外講師
目 標				
人間の生命現象を科学的に理解するために、人体の構成成分である化学物質の組成やその分布及び代謝を理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 生化学を理解するための基礎知識 (細胞の構造と機能を中心に) 2. 代謝の基礎知識	講義	
2	2	3. 糖質の代謝 (解糖系、クエン酸回路、電子伝達系)	講義	
3	2	3. 糖質の代謝 (グリコーゲン代謝、ペントースリン酸経路、糖新生) 4. 脂質とは (脂肪酸、トリグリセリド、リン脂質、コレステロール リポタンパク質)	講義	
4	2	5. 脂質の消化・吸収 6. 脂質の代謝 ( $\beta$ 酸化、ケトン体、脂肪酸、コレステロール、 エイコサノイドの合成)	講義	
5	2	7. タンパク質とは 8. タンパク質の代謝 (エネルギー代謝、窒素源について)	講義	
6	2	8. タンパク質の代謝 9. 核酸の代謝 (複製、核酸の合成、分解)	講義	
7	2	10. 核酸の代謝 (転写、翻訳) 11. 酵素	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	生化学 : 医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
病理学	1 (15)	1	第1学期	院外講師
目 標				
疾病の本態である病因と病変の特徴について理解する 正常から逸脱する場合の主要な症状・特徴のメカニズムに共通する現象について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 病理学とは 1) 病気の原因 (内因・外因) 2) 病気の分類	講義	
2	2	2. 細胞・組織の損傷と修復 1) 萎縮、変性、肥大 2) 壊死 3) 創傷と治癒 3. 炎症と免疫異常 4. 感染症	講義	
3	2	5. 循環障害 1) 浮腫 2) 充血とうっ血 3) 出血 4) 血栓症 5) 塞栓症 6) 虚血と梗塞 7) 側副循環 8) 高血圧症 9) DIC 10) ショック	講義	
4	2	6. 代謝障害 1) 脂質代謝障害 (肥満、動脈硬化、脂肪肝 脂質異常症) 2) タンパク質代謝障害 (高アンモニア血症 アミロイドーシス) 3) 糖質代謝障害 (糖尿病) 4) その他 (痛風)	講義	
5	2	7. 老化と死 細胞の老化、 1) 個体の老化と老年症候群 2) 加齢に伴う諸臓器の変化 3) 個体の死 (死の判定)	講義	
6	2	8. 先天異常と遺伝子疾患 1) 遺伝子と染色体 2) 先天異常の原因と分類 3) 遺伝子の異常と疾患	講義	
7	2	9. 腫瘍 1) 定義と分類 2) 腫瘍発生の病理 3) 腫瘍の広がりと影響	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	各講義で実施するミニテストと終講試験の結果を合わせて評価する 点数配分はミニテスト35点、終講試験65点である 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	病理学 : 医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目		単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※病態生理治療論 I		1 (30)	1	第1学期	院内講師 教員
目 標					
人体の機能を基本とし、呼吸器系の疾患の病態生理、主要症状および関連した検査・治療について理解する					
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与					
回	時間	授業内容		授業方法	備考
1	2	1. 呼吸器系の構造と機能 1) 呼吸器の構造		講義	
2	2	2) 呼吸の生理		講義	
3	2	2. 症状とその病態生理 1) 自覚症状 2) 他覚症状		講義	
4	2	3. 主要疾患：病態生理・症状・検査・治療・処置 1) 感染症 (インフルエンザ、肺炎、結核)		講義	
5	2	2) 間質性肺疾患		講義	
6	2	3) 気道疾患 (気管支喘息・気管支拡張症・慢性閉塞性肺疾患)		講義	
7	2	4) 肺循環疾患 5) 呼吸不全 6) 呼吸調整に関する疾患		講義	
8	2	7) 肺腫瘍 8) 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患		講義	
9	1	9) 肺移植 10) 胸部外傷		講義	
10	2	4. 検査治療処置 1) 検査：①血液検査 ②動脈血ガス分析 ③喀痰検査 ④胸水検査 ⑤呼吸機能検査 ⑥画像診断 ⑦内視鏡検査 ⑧生検		講義	
11	2	2) 治療・処置：①吸入療法 ②酸素療法 ③人工呼吸療法、		講義	
12	2	④呼吸理学療法 ⑤胸腔ドレナージ ⑥気道確保		講義	
13	2	5. 胸部疾患と外科的治療 1) 乳がんと外科的療法 (乳房切除術)		講義	
14	2	2) 肺がんと外科的療法 (肺切除術)		講義	
15	2	6. 肺の構造と機能から考える病態生理と症状のメカニズム (肺炎)		講義	
16	1	終講試験			
評価方法 点数配分		筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト		呼吸器 : 医学書院 女性生殖器 : 医学書院 臨床外科看護各論 : 医学書院			
その他		講義後に解剖生理学ワークブックの該当箇所を学習すること ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※病態生理治療論Ⅱ	1 (30)	1	第1学期	院内講師 教員
目 標				
人体の機能を基本とし、循環器系の疾患の病態生理、主要症状および関連した検査・治療について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 循環器の構造と機能 1) 心臓の構造と機能 2) 血管の構造と機能 3) 循環の調節	講義	
2	2	2. 症状と病態生理 1) 胸痛 2) 動悸 3) 呼吸困難 4) 浮腫	講義	
3	2	5) チアノーゼ 6) めまい失神 7) 四肢疼痛 8) ショック	講義	
4	2	3. 検査と治療 1) 心電図 2) 胸部レントゲン 3) 心エコー 4) 心臓核医学検査 5) CT	講義	
5	2	6) 心臓カテーテル法 7) 血行動態モニタリング	講義	
6	2	4. 疾患と症状・治療 1) 虚血性心疾患 (病態・危険因子)	講義	
7	2	1) 虚血性心疾患 (治療)	講義	
8	2	2) 心不全	講義	
9	2	3) 不整脈	講義	
10	2	4) 弁膜症・心膜炎・心筋症	講義	
11	2	5) 血圧異常・静脈系疾患	講義	
12	2	6) 動脈系疾患	講義	
13	2	5. 内科的・外科的治療 1) 冠状動脈バイパス術 2) 弁膜症に対する手術 3) 大血管再建術	講義	
14	1	4) 血管内治療	講義	
15	2	6. 心臓の構造と機能から考える病態生理と症状のメカニズム(心筋梗塞)	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	循環器 : 医学書院			
その他	講義後に解剖生理学ワークブックの該当箇所を学習すること ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※病態生理治療論Ⅲ	1 (30)	1	第1・2学期	院内講師 教員
目 標				
人体の機能を基本とし、消化器系の疾患の病態生理、主要症状および関連した検査・治療について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 口腔から十二指腸の構造と機能	講義	
2	2	2. 食道・胃・十二指腸の良性疾患と症状・検査・治療	講義	
3	2	3. 食道・胃の悪性疾患と症状・検査・治療	講義	
4	2	4. 小腸・大腸の構造と機能	講義	
5	2	5. 小腸・大腸の疾患と症状・検査・治療 1) 腸炎 2) 腹膜炎 3) 虫垂炎 4) ヘルニア	講義	
6	2	5) 腸閉塞 6) 大腸がん 7) 肛門疾患	講義	
7	2	6. 肝臓の構造と機能	講義	
8	2	7. 肝臓の疾患と症状・検査・治療 1) 総論 2) 肝炎	講義	
9	2	3) 肝硬変 4) 肝不全 5) 肝がん	講義	
10	2	8. 胆道系・膵臓の構造と機能	講義	
11	2	9. 胆嚢・膵臓の疾患と症状・検査・治療 1) 胆石症 2) 胆管がん 3) 胆嚢がん	講義	
12	1	4) 膵炎 5) 膵がん	講義	
13	2	10. 外科的治療 1) 下部消化管手術	講義	
14	2	2) 上部消化管手術	講義	
15	2	11. 肝臓の構造と機能から考える病態生理と症状のメカニズム (肝硬変)	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	消化器 : 医学書院 臨床外科看護各論 : 医学書院 解剖生理学 : 医学書院			
その他	講義後に解剖生理学ワークブックの該当箇所を学習すること ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※病態生理治療論IV	1 (15)	1	第1・2学期	院内講師 教員
目 標				
人体の機能を基本とし、運動器系の疾患の病態生理、主要症状及び関連した検査・治療について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 整形外科総論	講義	
2	2	2. 疾患の症状とその病態生理・検査・治療・処置 1) 骨折総論	講義	
3	2	2) 骨折各論	講義	
4	2	3) 変形性関節症	講義	
5	2	4) 脊椎疾患 5) 骨粗鬆症	講義	
6	2	6) 小児整形外科疾患 7) ロコモティブ症候群	講義	
7	2	3. 骨の構造と機能から考える病態生理と症状のメカニズム (骨折)	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	運動器 : 医学書院			
その他	講義後に解剖生理学ワークブックの該当箇所を学習すること ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※病態生理治療論Ⅴ	1 (30)	1	第1・2学期	院内講師 院外講師 教員
目 標				
人体の機能を基本とし、脳神経系の疾患の病態生理、主要症状および関連した検査・治療について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 脳・神経系の機能と構造	講義	
2	3	2. 脳・神経系疾患の症状とその病態生理	講義	
3	2	3. 疾患と症状・検査・診断・治療 1) 脳出血・クモ膜下出血	講義	
4	2	2) 脳腫瘍	講義	
5	2	3) 頭部外傷 (硬膜外血種・硬膜下血種・脳挫傷) 4) 脳ヘルニア	講義	
6	2	5) 脳脊髄液の異常 6) 脊髄疾患	講義	
7	2	7) 神経・筋疾患 (筋ジストロフィー・重症筋無力症)	講義	
8	2	8) 脱髄・変性疾患 (多発性硬化症・パーキンソン病・ALS)	講義	
9	2	9) 脳梗塞	講義	
10	2	10) 末梢神経障害 (ギランバレー症候群・単神経障害・顔面神経麻痺・血漿交換法含む)	講義	
11	2	11) 脳・神経系の感染症 (脳炎・髄膜炎、脳脊髄検査・薬物療法含む)	講義	
12	2	12) てんかん	講義	
13	2	13) 認知症 (アルツハイマー病・脳血管性認知症・レビー小体認知症)	講義	
14	2	4. 脳の構造と機能から考える病態生理と症状のメカニズム (脳出血)	講義	
15	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	脳・神経 : 医学書院			
その他	講義後に解剖生理学ワークブックの該当箇所を学習すること ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			



【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※病態生理治療論Ⅵ	1 (30)	1	第1・2学期	院内講師 院外講師 教員
目 標				
人体の機能を基本とし、腎泌尿器系・生殖器系の疾患の病態生理、主要症状および関連した検査・治療について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 腎臓の構造と機能	講義	
2	2	2. 腎・泌尿器系疾患の症状とその病態生理 1) 尿の異常 2) 浮腫 3) 脱水	講義	
3	2	4) 循環器系の異常 5) 酸・塩基平衡	講義	
4	2	3. 腎臓の疾患と症状・検査・治療・処置 1) ネフローゼ症候群 2) 糸球体腎炎	講義	
5	2	3) 全身性疾患による腎障害 4) 腎血管性病変	講義	
6	1	5) 腎不全	講義	
7	2	4. 泌尿器・男性生殖器の機能と構造	講義	
8	2	5. 泌尿器・男性生殖器の疾患・症状・検査・治療・処置 1) 尿路結石症 2) 男性性機能障害 3) 排尿障害	講義	
9	2	4) 尿路・性器の腫瘍	講義	
10	2	6. 女性生殖器の構造と機能 7. 女性のライフステージに応じた具体的変化	講義	
11	2	8. 女性生殖器系疾患の症状と病態生理	講義	
12	2	9. 女性生殖器系疾患と症状・検査・治療 1) 膣の疾患 2) 子宮の疾患	講義	
13	2	3) 卵管の疾患 4) 卵巣の疾患	講義	
14	2	5) 機能的疾患 6) 感染症	講義	
15	2	10. 腎臓の機能から考える病態生理と症状のメカニズム (腎不全)	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	腎・泌尿器 : 医学書院 女性生殖器 : 医学書院			
その他	講義後に解剖生理学ワークブックの該当箇所を学習すること ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門基礎分野】

科目		単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※病態生理治療論Ⅶ		1 (30)	1	第2学期	院内講師 教員
目 標					
人体の機能を基本とし、内分泌系・代謝系・感覚器系の疾患の病態生理、主要症状および関連した検査・治療について理解する					
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与					
回	時間	授業内容	授業方法	備考	
1	2	1. 内分泌器官の構造と機能	講義		
2	2	2. 内分泌疾患の症状・病態生理・検査・治療・処置 1) 甲状腺疾患 2) 副甲状腺疾患	講義		
3	2	3) 副腎疾患 4) 内分泌腫瘍	講義		
4	2	3. 代謝器官の構造と機能・疾患の症状と病態生理・検査・治療 1) 糖尿病 (概要・分類・診療)	講義		
5	2	糖尿病 (治療・合併症)	講義		
6	1	糖尿病 (妊娠・高齢者)	講義		
7	2	2) 脂質異常症 3) 肥満症とメタボリックシンドローム 4) 尿酸代謝異常	講義		
8	2	4. 眼の構造と機能	講義		
9	2	5. 眼疾患の症状・病態生理・検査・治療・処置 1) 機能の障害 2) 結膜・角膜の疾患	講義		
10	2	3) 網膜・硝子体の疾患 4) 水晶体の疾患 5) 緑内障	講義		
11	2	6. 口腔喉咽頭の機能と構造・疾患・症状・病態生理・検査・治療・処置 1) 口腔がん 2) 舌がん 3) 咽頭がん 4) 喉頭がん	講義		
12	2	7. 頸部の構造と機能・疾患・症状・病態生理・検査・治療・処置 1) 甲状腺腫瘍 2) 副甲状腺腫瘍	講義		
13	2	8. 耳の構造と機能・疾患・症状・病態生理・検査・治療・処置 1) 中耳炎 2) メニエール病	講義		
14	2	9. 鼻の機能と構造・疾患・症状・病態生理・検査・治療・処置 1) 鼻中隔湾曲症 2) 副鼻腔炎	講義		
15	2	10. 内分泌代謝器官の構造と機能から考える病態生理と症状のメカニズム (糖尿病)	講義		
16	1	終講試験			
授業形態	講義				
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする				
テキスト	内分泌・代謝 : 医学書院 眼 : 医学書院 耳鼻咽喉 : 医学書院				
その他	講義後に解剖生理学ワークブックの該当箇所を学習すること ※この科目は実務経験のある教員による授業科目である				

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
病態生理治療論Ⅷ	1 (30)	1	第2学期	院内講師
目 標				
人体の機能を基本とし、血液リンパ系・免疫・アレルギー、膠原病の疾患の病態生理、主要症状および関連した検査・治療について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 血液の生理と造血のしくみ 1) 血液の成分と機能	講義	
2	2	2) 造血のしくみ	講義	
3	2	2. 症候と病態生理 1) 貧血 2) 白血球増加症・減少症 3) リンパ節腫脹 4) 出血性素因	講義	
4	2	3. 治療の理解 1) 輸血療法	講義	
5	1	4. 検査・診断 1) 末梢血検査 2) 骨髄穿刺 3) 出血傾向の検査 4) 血液型	講義	
6	2	5. 血液・造血器系疾患と症状・治療 1) 赤血球系の異常 2) 白血球系の異常	講義	
7	2	3) 造血器腫瘍	講義	
8	2	4) 出血性疾患	講義	
9	2	6. 免疫のしくみ	講義	
10	2	7. アレルギー	講義	
11	2	8. 疾患・症状・検査・治療 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス	講義	
12	2	3) 全身性強皮症	講義	
13	2	4) 多発性筋炎・皮膚筋炎 5) ベーチェット病	講義	
14	2	5. 血液・造血器系疾患と症状・治療 5) 血小板異常による出血性疾患 6) 凝固異常による出血性疾患 7) DIC	講義	
15	2	8) HIV	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	血液・造血器 : 医学書院 アレルギー 膠原病 感染症 : 医学書院			
その他	講義後に解剖生理学ワークブックの該当箇所を学習すること			

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
病態生理治療論IX	1 (15)	1	第2学期	院内講師
目 標				
<p>主要な治療方法である手術療法、放射線療法、化学療法の基礎的知識を理解する</p> <p>ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与</p>				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 手術療法 1) 手術療法とは 2) 手術療法による生体への影響	講義	
2	2	1. 手術療法 3) 麻酔法 (1) 麻酔とは (2) 麻酔の種類と特徴 (3) 全身麻酔 吸入麻酔、静脈麻酔、合併症	講義	
3	2	1. 手術療法 3) 麻酔法 (4) 局所麻酔 脊椎麻酔、硬膜外麻酔、合併症	講義	
4	2	2. 放射線療法 I 1) 放射線診療の種類と概要 (1) 放射線診断 (2) 核医学診断・治療 2) 放射線の基礎知識 (1) 放射線の種類と特徴 (2) 放射線治療 (3) 放射線発生メカニズム (4) 放射線の単位 (5) 放射線被ばくと影響 3) 放射線治療の実際 (1) 放射線治療の種類 (2) 有害事象	講義	
5	2	2. 放射線療法 II 1) 放射線診断の実際 (1) X線検査 (造影、透視、CT) IVR (2) 有害事象 (造影剤の副作用等) 2) 核医学診断・治療の実際 (1) シンチグラム、PET (2) 有害事象	講義	
6	2	3. 化学療法 1) 化学療法の歴史 2) 化学療法の種類と特徴 3) 化学療法の原理 4) 化学療法の目的	講義	
7	2	3. 化学療法 5) 化学療法の副作用 (有害反応) 6) 抗がん剤暴露からの防護	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	臨床外科看護総論 (手術療法) : 医学書院 臨床看護総論 (化学療法) : 医学書院 臨床放射線医学 (放射線療法) : 医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
栄養学	1 (15)	1	第1学期	院内講師
目 標				
生命の維持、エネルギー生産のための栄養素のはたらきについて理解する。 疾患や症状別の食事について理解する。				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP2の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 人間栄養学と看護	講義	
2	2	2. 栄養素の種類とはたらき	講義	
3	2	3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 4. エネルギー代謝	講義	
4	2	5. 食事と食品 6. 栄養ケア・マネジメント	講義	
5	2	7. 栄養状態の評価・判定 8. ライフステージと栄養	講義	
6	2	9. 臨床栄養 1) 病院食      2) 栄養補助法      3) 疾患・症状別食事療法	講義	
7	2	4) 術前・術後の栄養管理 10. 健康づくりと食生活	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	栄養学 : 医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
微生物学	1 (15)	1	第1学期	院内講師
目 標				
感染症や伝染病の要因として重要な病原微生物の特徴と必要な予防、検査、治療について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 微生物学の基礎 (細菌の性質、真菌の性質、原虫の性質、ウイルスの性質)	講義	
2	2	2. 感染と感染症 1) 感染の成立とその経路	講義	
3	2	2) 感染に対する生体防御機構	講義	
4	2	3) 感染源・感染経路からみた感染症 4) 滅菌と消毒	講義	
5	2	5) 感染症の検査と診断 6) 感染症の治療 7) 感染症の現状と対策	講義	
6	2	3. 主な病原微生物 1) 病原細菌と細菌感染症      2) 病原真菌と真菌感染症 3) 寄生虫と衛生動物	講義	
7	2	4) 病原ウイルスとウイルス感染症	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	微生物学 : 医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
薬理学	1 (15)	1	第2学期	院内講師
目 標				
看護の臨床で活用できる基本的な薬物動態や薬が生体に及ぼす影響、薬の取り扱いや管理について理解する。				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 薬理学の概念 1) 薬とは 2) 薬物の使用目的 3) 薬物治療の目指すもの	講義	
2	2	2. 薬が作用するしくみ (薬力学)	講義	
3	2	3. 薬の体内挙動 (薬物動態学) 1) 投与経路 2) 薬物の吸収・分布・代謝・排泄 3) 薬物動態の指標 4) 薬物相互作用	講義	
4	2	4. 薬効に影響を及ぼす要因 1) 年齢 (小児・高齢者) の影響 2) 性・妊娠・胎児への影響 3) 遺伝子の影響	講義	
5	2	5. 薬物使用の有益性と危険性 1) 用量による影響 2) 副作用 3) 反復投与による影響 (薬剤耐性、薬物依存)	講義	
6	2	6. 薬と法律 1) 医薬品に関する法律 2) 薬の管理 3) 新薬の開発 (治験)	講義	
7	2	7. 看護業務に必要な薬の知識 1) 薬に関する単位 (薬液の溶質量と薬液量の換算方法) 2) 処方箋 (種類、記載事項、読み方) 3) 添付文書 (記載項目、読み方)	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	薬理学 : 医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
臨床薬理学	1 (30)	2	第1学期	院内講師
目 標				
薬理学での基本的知識をもとに、疾病の回復につながる薬物療法と臨床での服薬指導の実際について理解できる。				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 抗菌感染症薬 (作用機序、抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗寄生虫薬)	講義	
2	2	2. 抗がん薬 (作用機序、抗がん薬の種類、有害作用、暴露)	講義	
3	2	3. 免疫治療薬 (作用機序、免疫抑制剤、免疫増強剤・予防接種薬)	講義	
4	2	4. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 (作用機序、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱・鎮痛薬) 5. 皮膚科用薬・眼科用薬 (外用薬の種類と投与方法、ステロイド外用薬、抗炎症薬、緑内緒治療薬)	講義	
5	2	6. 末梢神経系に作用する薬物 (作用機序、交感神経作用薬、副交感神経作用薬：コリン作用薬・抗コリン薬、筋弛緩薬)	講義	
6	2	7. 中枢神経系に作用する薬物 (1) (作用機序、吸入・静脈麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬・気分安定薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬)	講義	
7	2	7. 中枢神経系に作用する薬物 (2) (麻薬性鎮痛薬：作用機序、副作用、種類と特徴)	講義	
8	2	8. 循環器系に作用する薬物 (作用機序、降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、抗血液凝固薬、血栓溶解薬・抗血小板薬、止血薬)	講義	
9	2	9. 呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物 (作用機序、気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、制吐薬、下剤と止痢薬など)	講義	
10	2	10. 物質代謝に作用する薬物 (作用機序、糖尿病治療薬：経口血糖降下薬、インスリン製剤、甲状腺疾患治療薬、骨粗鬆症治療薬)	講義	
11	2	11. 救急の際に使用される薬物 ・救急蘇生時の薬物：アドレナリン、ノルアドレナリン、ドパミン塩酸塩 ・急性中毒に対する薬物：解毒薬	講義	
12	2	12. 輸液製剤・輸血剤 ・輸液製剤の種類と適応 (高カリウム輸液を含む) ・輸血用血液製剤の種類と適応	講義	
13	2	13. 漢方薬 ・漢方薬の特徴と有害作用 14. 消毒薬 ・消毒薬の種類と適応	講義	
14	2	15. 臨床で行われる服薬指導の実際	講義	
15	1	16. 全体のまとめ	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	薬理学 : 医学書院                      臨床薬理学 : 医学書院			
その他				



【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※総合医療論	1 (15)	2	第2学期	院外講師 院内講師 学校長 副学校長
目 標				
時代の変化と共に歩んできた医療の歴史を振り返り、国立病院機構が担う役割や機能について理解する。また、医療・福祉の抱えている問題点やその問題発生の背景についても考え、専門職として社会に貢献するための方向性を知る。				
ディプロマポリシーとの関連：DP7、DP1、DP6、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 医療の歩みと医療観の変遷 2. 科学技術の進歩と現代医療の最前線	講義 演習 GW	
2	2	1. 医療の歩みと医療観の変遷 2. 科学技術の進歩と現代医療の最前線	演習 発表	
3	2	3. 医療を見つめ直す新しい視点 1) 情報化社会と医療	講義	
4	2	4. 現代医療の新たな課題 1) 生命倫理学と臨床倫理学の展開	講義	
5	2	4. 現代医療の新たな課題 2) 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 3) インフォームドコンセントと医療情報の開示	講義	
6	2	5. 国立病院機構の役割と機能	講義	
7	2	6. 国立病院機構におけるセーフティネット医療	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	総合医療論 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
公衆衛生学	1 (30)	2	第1・2学期	院外講師
目 標				
健康の維持・増進・疾病予防の側面から疾病構造の変化や高齢者・在宅療養者の問題を考え、公衆衛生活動について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 公衆衛生の概要	講義	
2	2	2. 公衆衛生のしくみ	講義	
3	2	3. 環境保健・食品衛生	講義	
4	2	4. 感染症と予防対策	講義	
5	2	5. 疫学・保健統計	講義	
6	2	6. 公衆衛生看護・母子保健	講義	
7	2	7. 成人保健	講義	
8	2	8. 高齢者保健	講義	
9	2	9. 精神保健・歯科保健	講義	
10	2	10. 障がい者保健・難病保健	講義	
11	2	11. 学校保健	講義	
12	2	12. 産業保健	講義	
13	2	13. 災害保健・健康危機管理	講義	
14	2	14. 国際保健	講義	
15	1	15. 課題レポートの解説と復習	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験：50点、講義後レポート課題：40点 その他：10点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	公衆衛生 : 医学書院 国民衛生の動向 : 厚生労働統計協会			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
関係法規	1（15）	3	第1学期	院内講師
目 標				
看護業務に携わる人の身分や業務に関する法の理解と共に健康な生活を維持するために必要な法令を理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP7、DP1、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 法の概念 2. 看護法：保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	① ② ①
2	2	3. 医事法：医療法 医療関係資格法 医療を支える法	講義	
3	2	4. 保健衛生法：共通保健法（地域保健法、健康増進法） 感染症に関する法（感染症の予防及び感染症の患に 関する医療に関する法律など） 食品に関する法（食品安全基本法など）	講義	
4	2	5. 環境法：環境基本法、公害防止法、自然保護法（地球環境） クリーニング業法、水道法、下水道法など 6. 社会保険法：健康保険法、介護保険法など 年金（国民年金法、厚生年金保険法）	講義	
5	2	7. 福祉法：社会福祉法、生活保護法 分野別福祉に関する法律：児童分野、高齢分野、障害分野	講義	
6	2	8. 労働法と社会基盤整備：労働法（労働基準法、労働安全衛生法など） 社会基盤整備（男女共同参画社会基本法 など）	講義	
7	2	9. 薬務法：薬事一般に関する法律 人などの組織を用いた医療関連法 薬害被害者の救済 麻薬・毒物などの法	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	健康支援と社会保障制度（4）看護関係法令：医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
社会福祉 I	1（15）	2	第1学期	院内講師
目 標				
社会福祉の発達、理論、社会福祉制度と専門的方法、社会保障制度について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP6の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 社会保障制度	講義	
2	2	2. 社会福祉の制度と体系	講義	
3	2	3. 医療保障制度（1）	講義	
4	2	3. 医療保障制度（2）	講義	
5	2	4. 介護保障制度（1）	講義	
6	2	4. 介護保障制度（2）	講義	
7	2	5. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	社会保障・社会福祉 : 医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
社会福祉Ⅱ	1 (30)	2	第1学期	院外講師
目 標				
社会福祉活動の現状を理解し、国民の福祉に対するニーズに応えるための方法や制度、サービスの活用について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP6の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 社会福祉の歴史 (1)	講義	
2	2	1. 社会福祉の歴史 (2)	講義	
3	2	2. 所得保障 (1)	講義	
4	2	2. 所得保障 (2)	講義	
5	2	3. 公的扶助 (1)	講義	
6	2	3. 公的扶助 (2)	講義	
7	2	4. 児童家庭福祉 (1)	講義	
8	2	4. 児童家庭福祉 (2)	講義	
9	2	5. 障害者福祉 (1)	講義	
10	2	5. 障害者福祉 (2)	講義	
11	2	6. 高齢者福祉 (1)	講義	
12	2	6. 高齢者福祉 (2)	講義	
13	2	7. 社会福祉実践と医療、看護	講義	
14	2	8. 医療・看護・福祉の連携の実際 (1)	講義	
15	1	8. 医療・看護・福祉の連携の実際 (2)	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義			
評価方法 点数配分	筆記試験 60点 授業後レポート40点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	社会保障・社会福祉 : 医学書院			
その他				

【専門基礎分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※健康支援論	1（15）	2	第1・2学期	① 教育主事 ② ③院内講師
<b>目 標</b>				
健康障害予防や健康増進活動、生活支援について学び、対象に応じた健康支援を実施できる能力を身につける				
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP6の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 健康支援の概要 2. 地域保健活動と健康支援	講義	
2	2	3. 地域で健康な生活を送るための支援活動の実際（ADL面、体操など）	講義 演習	
3	2	4. 地域で健康な生活を送るための支援活動の実際（栄養面）	講義 演習	
4	2	5. 健康支援の実際 1) 健康支援の企画 （企画書の作成、企画内容・方法の検討）	講義 GW	
5	2	2) 健康支援の企画内容検討と発表準備	演習 GW	
6	2	3) 健康支援の実施（発表とリフレクション）①	演習 GW	
7	2	健康支援の実施（発表とリフレクション）②	演習 GW	
8	1	筆記試験		
授業形態	講義、演習			
評価方法 点数配分	筆記試験：35点、演習：35点 課題：30点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ : 医学書院 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			